

事業成果報告書

※下記アドレスにメール添付でご提出ください。

竹村和子フェミニズム基金 <t-fund@npo-ochanomizu.org>

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
松田 和樹	(代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
家族法を問いなおす——自己決定としての家族、その可能性と限界	
3. 助成額	
280,000円	
4. 実施期間	
2020年7月 ~ 2021年6月	
5. 実施状況	
<p>第一期(7~9月)は、成人と子の間の養育関係に法がいかなる介入をすべきであるのかを検討した。この成果は、9月に横浜で開催される国際学会 The 2nd IVR Japan International Conference(IVRJ)にて発表することを申請時に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大とこれに伴う各国の出入国管理の強化を理由としてIVRJが2022年に延期されたため、代わりに2020年度12月に開催されたジェンダー法学会にて報告した。またこれに関する研究成果を論文化し、学術雑誌『法と哲学』に投稿し、掲載された。</p> <p>第二期(10~12月)は、成人間の共同生活関係に法がいかなる介入をすべきかを検討した。この成果は、台湾の国立高雄大学にて開催される国際学会 The 12nd East Asian Conference on Philosophy of Law(EACPL)にて報告することを申請時に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大とこれに伴う各国の出入国管理の強化を理由としてEACPLが中止されたため、代わりに2021年度6月に開催された日本女性学会にて報告した。</p> <p>第三期(1~3月)は、第一期・第二期の作業を総点検するとともに、これまでの作業の総仕上げとして博士論文の計画・執筆を開始した。3月には学内の博士論文コロキウムにて草稿を報告し、指導教官を含め5人の研究者からフィードバックを得た。</p> <p>第四期(4~6月)は、博士論文の執筆を進めた。この際、6月の日本女性学会で本研究の一年の成果全体を報告し、フィードバックを得ることを申請時に予定していたが、日本女性学会では第二期での研究成果を報告することとした。ただし、本研究の全体の構想については、2020年10月末頃に開催されたオンライン・シンポジウム『「性」研究の最前線』にて報告した。また、</p>	

本研究の一年の成果全体を報告する機会として、博士論文コロキウムで博論構想発表をした。

6. 事業成果と自己評価

本研究は、法哲学・政治哲学の立場から、家族をめぐる人々の自己決定や合意の可能性と限界を理論的に見極めることで、現行の親族法秩序を批判的に再検討するとともに、それをいかに再編すべきかという問題に応答するものであった。

第一に、成人間の共同生活関係に法がいかなる介入をすべきかを検討した。この際に、婚姻の契約法化について特徴的な構想を提案しているクレア・チェンバーズとエリザベス・ブレイクの議論を検討した。この検討を通じて、婚姻法の契約法化の最善の構想を同定するための手がかりを得た(詳しくは日本女性学会での発表レジュメを参照)。この手掛かりをもとにして、契約法と社会保障法のありべき機能分化に関する考察を、とりわけ成人同士の共同生活をめぐる問題について、深めていきたい。

第二に、成人と子の間の養育関係に法がいかなる介入をすべきであるかを検討した。特に、現行の親子法における生殖規範性を問題化し、「成人たちの養育の自由と、それを制約する原理としての子どもの権利」という理論枠組みで現行の親子法を再検討すべきであるという形で議論を進められた点は、重要な成果となった(詳しくは『法と哲学』掲載の論文を参照)。今後は、子どもの権利に関する考察を一層深めることで、養育者に求められる資質や、正当化可能な法制度のありようについて、検討していきたい。また加えて、養育責務の因果説については、自説を修正する可能性まで含めて更なる検討が必要であるように思われる。

博士論文構想は、分量的にはかなり長大なものを仕上げることができたが、依然として、細かな論点整理ばかりにこだわり、「グランド・セオリー」を見つけられない状況にある。今後はとりわけ、契約法と分配的正義という問題についてこれまで以上に探求していくことで、それを見つけていきたい。

7. 提出成果物

- ① 成人と子の養育関係に関して検討する論文。またこの内容はジェンダー法学会で報告したため、その際のレジュメも提出する。
- ② 成人間の共同生活関係に関して検討した日本女性学会での報告レジュメ。
- ③ 本研究の構想全体を発表する研究報告として、シンポジウム「性研究の最前線」での報告レジュメと、博士論文コロキウムにおける博論構想発表レジュメ。